



子どもの背が低いこと 個性として見守っていいの？



「まわりの子に比べて、子どもの背が低いことが目立ってきた」「以前に比べ身長が伸びなくなってきている」と、お子さんの身長についてのお悩みを誰かに相談したいと思われたことはありませんか？
低身長の判定や隠れている病気についてお話しいたします。

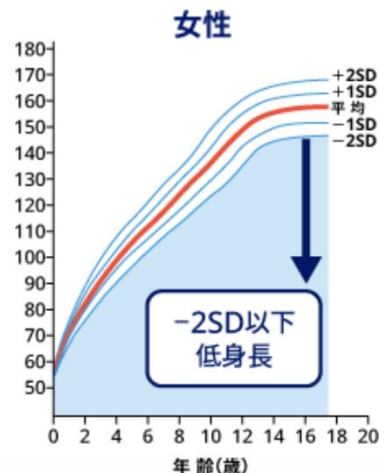
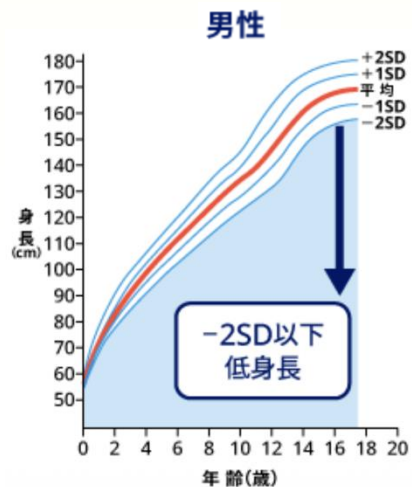
SDスコアとは？

まずはじめに、用語について説明します。
SDとは、standard deviationの略で、標準偏差を意味します。統計で用いられる用語で平均からどれくらい離れて(ずれて)いるか？を示すものです。小児科では、年齢の平均身長と比べてどのくらい身長が低いか、SDスコアで判定します。

「-2SD」が低身長の定義

医学的には、標準偏差の2倍小さい「-2SD」が低身長の定義で、100人に2、3人の子どもが当てはまります。

SDスコアは、以前は表と電卓で計算して求めていましたが、最近は低身長でネット検索すると自動的に計算してくれるホームページが多数見つかり、そこに現在の身長や生年月日などを入力するとSDスコアを簡単に知ることができるようになりました。そこで身長SDスコアが-2SD以下であった場合には、小児科に相談されることをお勧めします。



個性なのか、病気なのか

低身長児は何らかの病気が隠れているものが3割程度といわれており、また $-2SD$ 以下ではないものの急に身長伸びが悪くなってきた場合も病気が隠れている可能性があります。低身長の原因としては成長ホルモンや甲状腺ホルモンの不足、ターナー症候群やブラダーウィリ症候群など染色体異常、小さく産まれたことが関係しているもの(SGA性低身長)、骨や心臓、肝臓などの慢性疾患、過剰なトレーニングや心理社会的要因など種々なものがあり、診察や検査にてそれらの病気が隠れていないかどうかを調べることが重要です。

逆に7割ほどの低身長児は異常が見つからず、体質性や家族性低身長、また二次性徴がゆっくり進む思春期遅発(いわゆる晩熟)など特に病気ではないと診断され、その場合は低身長を個性として受け入れていただくことが必要です。

病気が認められた場合の治療

甲状腺ホルモンの不足では甲状腺ホルモン補充療法(飲み薬)を行います。脳腫瘍や慢性疾患、摂取カロリー不足や亜鉛欠乏が見つかった場合はその治療をまず行います。

成長ホルモン分泌不全性低身長症やターナー症候群やブラダーウィリ症候群、SGA性低身長で治療開始基準を満たす場合では、成長ホルモンの補充療法を行います。成長ホルモンは飲み薬ではなく注射(毎日または週1回)で行い、中学生頃まで続けることが多いです。詳しくは小児科にてご相談ください。



市立大津市民病院

小児科

診療部長 中嶋 敏宏